

ネットワークカメラシステム 製品多様化で厚み増すビジネス

用途を拡大することで急成長してきたネットワークカメラ市場。監視領域でも商品の高機能化・多様化が進んでおり、その勢いは加速。ビジネスチャンスはさらに広がりそうだ。

文 坪田弘樹(本誌)

ネットワークカメラ市場の活況が続いている。

複数の調査会社のデータによれば、監視カメラの市場規模は、06年実績で75万台、350億円程度。前年比十数%の成長率だ。ネットワークカメラが占める割合はその15%程度だが、アナログカメラをはるかに凌ぐ成長を示しており、09年には市場規模が2倍超に膨らむと予測するデータもある。

ネットワークカメラ市場の成長は、2つの要素に分けられる。1つは、従来のアナログ監視カメラの代替だが、アクシスコミュニケーションズ代表取締役社長の浅野誠一氏は「最近、システムの選定に当たってネットワークカメラを指定するユーザーが増えた」と、ユーザー認知度の変化を指摘する。

同氏によれば、国内のネットワークカメラの導入は03年ごろから本格化した。当時のユーザー意識は「革新的な新技術を採用するというものだった」。その形勢が今年大きく変わった」と手応えを口にする。導入件数が伸びるだけでなく、大型案件が増えているためだ。最近では数百台規模の案件もまったく珍しくない状態になっているという。

キヤノンマーケティングジャパン(キヤノンMJ)・ビジネスプロダクト企画本部マルチメディア商品企画部ネットワークカメラ商品企画課の大日方祐幸課長代理も、「2~3年後には、ネットワークカメラが上回るのではないかと市場を展望している。

「通信系が牽引」の状況は続く

もう一つ、ネットワークカメラの市場成長には、それまでアナログ監視カメラの案件を取り扱ってきた映像系のインテグレーターではなく、通信系・ネットワーク系のインテグレーターが牽引してきたという経緯がある。

本誌10月号の「通信系ディーラー白書 2007」でもそれは明らかになった。回答企業のおよそ4分の3が取り扱っており、約3分の1が「現在売上が伸びている商材」にネットワークカメラを挙げた。

また、「今後注力したい商材」の一番手にも挙がっており、すでに通信系ディーラーやSler/Nlerのビジネスにネットワークカメラが貢献していることがわかる。

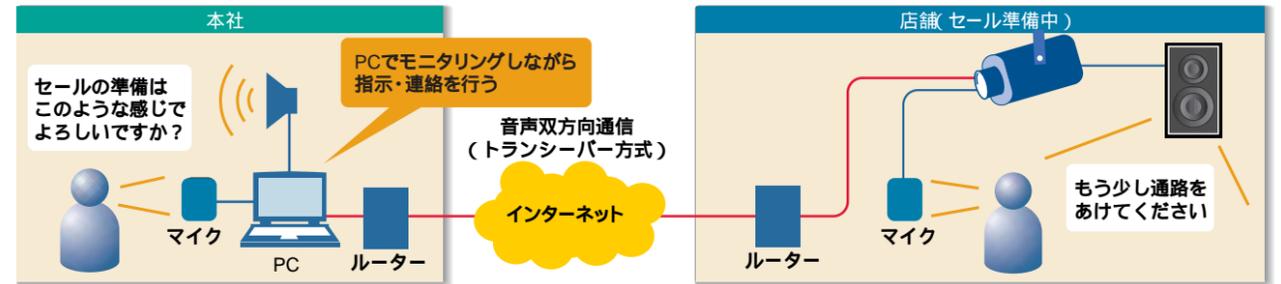
映像系のインテグレーターの中にも、ユーザー意識の変化を読み、ネットワーク技術の取り込みを図るところが出てきてはいるが、依然として少数派のようだ。なにより、監視カメラ市場全体が拡大している状況であり、アナログカメラも依然として堅調に推移していることも影響しているのだろう。

11月にネットワークカメラを発売するシーベルも、通信系ディーラーのパートナー開拓を重視する1社だ。同社の丹羽和則代表取締役はネットワークカメラの発売に当たり従来のアナログカメラ販売店に案内をかけたが、期待した反応が得られなかったという。「やはり通信系のパートナー開拓が不可欠との意を強くした。カメラの設置プランや画角設定など通信系工事には無い工事ノウハウは、当社が



パナソニック コミュニケーションズの「BB-HCM511」(左)と「BB-HCM581」

図表1 ネットワークカメラを活用した業務改善の例



出典：パナソニック コミュニケーションズ資料より編集部で作成

サポートしてしていく」と語っている。

同社は電子ポスターなどの商材を持ち、丹羽氏は「カメラと絡め、映像ネットワークビジネスを通信系パートナーとともに強化したい」としている。

通信系・ネットワーク系が市場を牽引していく状況は今後も続きそうだ。

用途はさらに拡大

また、「監視・セキュリティ」といった用途以外への活用領域の広がりもネットワークカメラの特徴だ。マーケティングや管理、商業用サービスなどへの活用が、ここへきて本格化しつつある。

その好例が、パナソニック コミュニケーションズ(PCC)のネットワークカメラシステムだろう。同社ホームネットワークカンパニー・新規事業開拓

グループ、ITチャネル事業開拓チームの寺内宏之チームリーダーは「当社のカメラは監視を目的としてきたアナログカメラの置き換え商品ではない。だから、新規導入がほとんどを占める。カメラシステムの新しい市場を開拓してきている」と語る。

同社は、遠隔地からのモニタリングにより業務効率を向上させるという「ゼロ距離マネジメント」を提案する。図表1のような、本部から拠点/店舗内の様子をモニタリングし、距離の制約なしに管理・指示を行うといった活用シーンが代表的だが、実際にマネジメントの効果が検証できている例も出てきており、今後も導入が進みそうだ。

また、コインランドリーや娯楽施設、駐車場などで顧客向けのサービス提

供に活用するケース(図表2)や、一般的なオフィスへの導入も増えているようだ。寺内氏に最近の導入企業の傾向を聞いたところ、「業種が多様で捉えきれない」との回答。ディーラーのアイデア・工夫次第で、活用シーンはまだまだ広がりそうだ。

「監視」のPSSは画質を追求

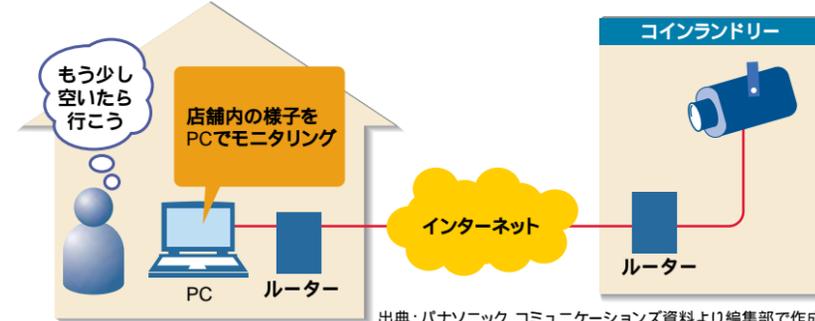
さて、このような市場環境を反映して、各メーカーからは今年も新製品リリースが相次いでいる。次は、各社のラインナップを確認しつつ、現在の製品トレンドを見ていこう。

前述のように、「モニタリング」を主要用途として市場の拡大を牽引するPCCは、現在12機種を販売する。

ドームタイプ1機種を除き、最近発売されているモデルはすべて、カメラの向きを変えられるパン・チルト型だ。今年発売された「BB-HCM5**」シリーズ5機種は、JPEG方式に加えMPEG4に対応した。高解像度のメガピクセルカメラも1機種販売されている(BB-HCM515)。

また、同社の製品はSDカード録画に対応していることも特徴。この使い勝手も向上している。「5シリーズ」では、ネットワーク接続、PCでの設

図表2 ネットワークカメラを活用した映像配信サービス提供の例



出典：パナソニック コミュニケーションズ資料より編集部で作成